

第3期京都府がん対策推進計画ロジックモデル(案)

分野別施策	アウトプット指標(施策目標)	データソース	
①食生活・身体活動・飲酒等生活習慣	食塩摂取量の減少(20歳以上)	府民健康・栄養調査	
	野菜摂取量の平均(20歳以上)	府民健康・栄養調査	
	運動習慣(週1回以上)のある者の割合(男女別、年齢別)	府民健康・栄養調査	
	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合	府民健康・栄養調査	
	肥満者・やせの者の割合	府民健康・栄養調査	
	食の健康づくり応援店の店舗数	府民健康・栄養調査	
	日常生活の平均歩行数	府民健康・栄養調査	
	がん教育の実施教数	健康対策課調べ	
	特定保健指導の実施率	府民健康・栄養調査	
	保険者とともに健康経営に取り組む企業数	日本健康会議「健康づくりに取り組む5つに実行宣言」	
②たばこ対策	(ア) 防煙(未成年者の喫煙防止)	小・中・高等学校における防煙教育の実施教数 健康対策課調べ 未成年の喫煙率 —	
	(イ) 禁煙支援	禁煙治療を行っている医療機関数	診療報酬施設基準届出状況
		禁煙支援薬局数	京都薬剤師会HP
		成人喫煙率	府民健康・栄養調査
	(ウ) 受動喫煙防止	妊産中の喫煙率	母子保健実施状況調査
③感染に起因するがん対策(ウイルス、細菌など)	(ア) 肝炎対策	肝がんの年齢調整罹患率(人口10万対)	京都府がん実態調査報告書
		啓発資料配布新規申込件数	健康対策課調べ
		肝炎ウイルス検査数	健康対策課調べ
		肝炎コーディネーター養成者数	健康対策課調べ
		肝疾患相談センターの相談件数	健康対策課調べ
	(イ) 子宮頸がん予防対策	市町村別HPVワクチン摂取率	地域保健・健康増進事業報告
		市町村別子宮頸がん検診受診率	地域保健・健康増進事業報告
		がん教育実施校数	健康対策課調べ
	(ウ) 胃がん予防対策(ヘリコバクターピロリの対策)	啓発イベントの実施回数	健康対策課調べ
		医療助成の実施件数	健康対策課調べ
(エ) HTLV-1予防対策	妊婦健康診査におけるHTLV-1抗体検査実施率	母子保健課調査	
	HTLV-1関連の窓口数	結核感染症課調査	
①検診の受診率向上	(ア) 受診率向上のための啓発	検診受診率	国民生活基礎調査
		受診率向上部会の開催状況	健康対策課調べ
	(イ) 受診しやすい環境づくり等	検診受診率	国民生活基礎調査
		がん検診と特定健診等同時受診を実施している市町村数	健康対策課調べ
②精度管理・検診従事者の資質向上	コンビニ検診の実施市町村数 休日・夜間検診体制をもつ市町村数	健康対策課調べ	
	チェックリスト(市町村・都道府県・検診実施機関)遵守率	チェックリスト	
	精検受診率	地域保健・健康増進事業報告	
	がん発見率	地域保健・健康増進事業報告	
	生活習慣病検診等管理指導協議会のホームページへの掲載状況	健康対策課調べ	
	研修会参加者数	健康対策課調べ	
指針外の検診を実施している市町村数	健康対策課調べ		

中間アウトカム(個別目標)	指標	データソース
がんの発生リスクを下げる生活習慣の普及	がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房)	全国がん登録
未成年者の喫煙防止、喫煙率の低下及び受動喫煙の防止による、がん罹患率の減少	がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房)	全国がん登録
感染に起因するがんの罹患率の減少	がん種別年齢調整罹患率(肝・ATL・子宮頸部)	全国がん登録
がん検診の受診率向上による、がんが早期発見され、進行がんにかかる患者の減少	検診受診率	国民生活基礎調査
科学的根拠に基づく検診方法で、精密検査受診率を向上させ、がんを正確に発見する体制の徹底	検診がん種別早期がん割合	全国がん登録
	がん種別年齢調整罹患率(胃・大腸・肺・女性乳房)	全国がん登録

分野別アウトカム(分野別目標)	指標	データソース
がんを予防し、早期発見・早期治療で、がんで亡くなる人を減らす	がんの年齢調整死亡率(75歳未満 人口10万人対)	全国がん登録

(1) がん予防・がん検診の強化

【1次予防：がんのリスクの減少】

【2次予防：がんの早期発見・がん検診】

分野別施策	アウトプット指標（施策目標）	データソース
-------	----------------	--------

中間アウトカム（個別目標）	指標	データソース
---------------	----	--------

分野別アウトカム（分野別目標）	指標	データソース
-----------------	----	--------

①手術療法、放射線療法、薬物療法、免疫療法の推進	(ア) 治療提供体制の強化	全ての二次医療圏において、手術、放射線治療及び薬物療法を効果的に組み合わせた集学的治療、リハビリテーション及び緩和ケアを提供する体制を有し、がん患者の状態に応じた適切な治療を提供	現況報告書	
		京都府がん医療戦略推進会議の開催	健康対策課調べ	
		全ての二次医療圏において、当該施設で対応可能ながんについて専門的な知識及び技能を有する手術療法に携わる常勤の医師を1人以上配置	現況報告書	
		全ての二次医療圏において、専従の放射線治療に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師を1人以上配置	現況報告書	
		全ての二次医療圏において、専従の薬物療法に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師を1人以上配置	現況報告書	
		地域連携クリティカルパスの適用件数	健康対策課調べ	
		専門医療機関連携薬局の認定数	業務課	
	(イ) 医療従事者の養成・研修機会の確保	当該がん医療圏において顔の見える関係性を構築し、がん医療の質の向上につながるよう、地域の診療従事者を対象とした研修やカンファレンスを定期的に開催しているがん診療連携拠点病院の割合	現況報告書	
	②緩和ケア・支持療法の推進	(ア) 専門的な緩和ケア提供体制の整備	緩和ケアチームの設置数	医療施設調査
			緩和ケアチーム取扱患者数	現況報告書
緩和ケア外来への地域医療機関からの紹介数			現況報告書	
緩和ケア外来の新規診察患者数			現況報告書	
(イ) 人材育成・確保		拠点病院等における緩和ケア研修会（PEACE）修了者数	健康対策課調べ	
(ウ) 病棟整備		緩和ケア病棟の整備数	施設届出基準	
(エ) 支持療法の推進		がん相談センターでの相談件数	健康対策課調べ	
③在宅医療の充実		研修会に参加の医師数	健康対策課調べ	
		地域連携カンファレンス回数	現況報告書	
		相談センターでの対応数	健康対策課調べ	
④連携体制の強化		地域連携バスの使用実績	健康対策課調べ	
		地域連携カンファレンス回数	現況報告書	
⑤小児がん及びAYA世代のがん対策		拠点病院・府主催のシンポジウムの開催	健康対策課調べ	
		小児がん拠点病院ブロック会議の開催	拠点病院	
⑥がんゲノム医療の普及		がんゲノム中核拠点病院等の数	厚生労働省指定数	
⑦その他治療機能の充実	(ア) チーム医療の推進	リハビリテーションに携わる専門的な知識及び技術を有する職員の配置	現況報告書	
	(イ) 希少がん・難治性がん	相談支援センターの情報提供数	健康対策課調べ	
	(ウ) 臨床試験等のがん研究の情報提供・普及啓発	—	—	
	(エ) その他療養生活等の質の向上の取組	助成実施市町村数	健康対策課調べ	
		提供施設の実態把握及びホームページ、冊子等での情報提供	—	
		がん患者指導管理料イ届出施設数	施設基準届	
	冊子の配布数	健康対策課調べ		
⑧新規医薬品、医療機器及び医療技術の速やかな医療実装		相談センター相談件数	健康対策課調べ	

手術、放射線治療、薬物療法及び免疫療法の均てん化や治療水準の向上、連携の強化等による、安心して治療を受けることができる体制の強化	がん診療連携拠点病院の整備推進	健康対策課調べ
がんと診断されたときからの療養生活の質の向上	自分らしい生活を遅れていると感じる患者数	患者体験調査
がん医療の均てん化の実現	希望どおりの医療機関に転院できた患者の割合	患者体験調査
がん医療の均てん化の実現	治療における希望が尊重されたと感じる患者の割合	患者体験調査
小児がん患者に対する診療体制、支援体制の強化	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あるかという問いに対し、「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合	患者体験調査
がんゲノム医療の情報提供体制の充実	ゲノム医療についてがん患者が知っている割合	患者体験調査
希少がん・難治性がんの生存率向上	希少がん・難治性がんの生存率	全国がん登録
がん診療の質の向上・均てん化	これまで受けた治療に納得した患者の割合	患者体験調査
情報提供体制の充実	治療決定までにすでに医療スタッフから治療に関する十分な情報を得られた患者の割合	患者体験調査

患者本位の適切な医療を実現し、がん患者およびその家族の苦痛や精神的不安の軽減ならびに療養生活の質の維持向上	がん種別5年生存率	全国がん登録/院内がん登録
	現在自分らしい日常生活を遅れていると感じるがん患者の割合	患者体験調査

② がん医療体制の整備・充実

分野別施策	アウトプット指標（施策目標）	データソース
-------	----------------	--------

中間アウトカム（個別目標）	指標	データソース
---------------	----	--------

分野別アウトカム（分野別目標）	指標	データソース
-----------------	----	--------

①相談支援体制、情報提供体制の充実	がん総合相談支援センター相談件数	健康対策課調べ	
	オンライン相談件数	健康対策課調べ	
	情報冊子送付先の数	健康対策課調べ	
	提供体制、他施設利用の整備	現況報告書	
	関係機関との連携及び受入体制	現況報告書	
	患者サロン・ピアサポーター養成講座修了者の活用	がん連協調査	
	②就労支援の強化	就労に関する相談に対応	現況報告書
		アピアランスに関する相談に院内で対応	現況報告書
		関係機関との連携及び受入体制	現況報告書
	③社会的な問題への対応の充実	関係機関との連携及び受入体制	現況報告書
	④小児・AYA世代、高齢者に対する支援の強化	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あるかという問いに対し、「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合	患者体験調査
		（ア）小児・AYA世代について 小児がん拠点病院ブロック会議の開催	拠点病院
		拠点病院・府主催のシンポジウムの開催	健康対策課調べ
		（イ）高齢者について ガイドラインの府HP等における照会	—
		全ての二次医療圏において、当該がん医療圏において、地域の医療機関や在宅療養支援診療所の連携・介護従事者とがんに関する医療提供体制や社会的支援、緩和ケアについて情報を共有し、役割分担や支援当について検討を行っている	現況報告書
	⑤アピアランスケアについて	指標なし	—
		相談支援センターへの相談件数	健康対策課調べ
	⑥がん診断後の自殺対策について	身体的苦痛、精神心理的苦痛、社会的な問題等への体制整備	現況報告書

がんおよびがん治療に関する情報提供体制の強化	ピアサポートを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	がん連協調査※
患者一人ひとりに寄り添った相談支援の実施	相談支援センターを利用したことがある人が役に立ったがん患者の割合	満足度調査（相談支援部会調べ）
がんになっても仕事を続けるための相談支援体制の強化	就労支援相談件数	現況報告
がん患者の社会的隔離への対応	自施設以外の患者、家族、地域住民からの相談件数	現況報告
患者・家族への支援の充実	がん患者の家族の悩みや負担を相談できる支援・サービス・場所が十分あるかという問いに対し、「とてもそう思う、ある程度そう思う」と回答した人の割合	患者体験調査
外見の変化に起因する苦痛の軽減	相談支援センターへの相談件数	健康対策課調べ
がん診断後の患者の自殺リスク対応の体制強化	身体的、精神的、社会的苦痛に対する緩和症例数	現況報告

がんになっても安心して暮らせる社会の構築	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	患者体験調査
----------------------	------------------------------	--------

（3）  
がんとの共生  
社会の実現

分野別施策	アウトプット指標（施策目標）	データソース
-------	----------------	--------

中間アウトカム（個別目標）	指標	データソース
---------------	----	--------

分野別アウトカム（分野別目標）	指標	データソース
-----------------	----	--------

④ これらを支える基盤の整備	①人材育成の強化	—	—
	②がん教育・がんの正しい知識の普及啓発	がん教育の実施校数	健康対策課調べ
		健康づくり推進員派遣事業実施回数	健康対策課調べ
		きょうと健康づくり実践企業等がん検診受診率工場などの健康づくりに取り組む企業数	健康対策課調べ
	③がん登録の推進	精度の高いがん登録の実施（100割合）	京都府がん実態調査報告書
	④患者・市民参画の推進	京都府がん対策推進協議会におけるがん患者を代表する委員の割合	健康対策課調べ
⑤デジタル化の推進	—	—	
⑥感染症発生・まん延時や災害時を見据えた対策	感染症発生・まん延時や災害時を見据えた対策がなされているか。	—	

がん対策における人材育成の強化により、がん専門医療人材が拠点病院等を中心に、適正に配置されることを目指す。	—	—
がん予防や早期発見の重要性を認識し、がんを正しく理解し。がん向き合う	「がんは誰もが係る可能性のある病気である」に対して「正しい」と回答した割合  「がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合	がん教育総合支援 事業事業成果報告書  がん教育総合支援 事業事業成果報告書
がん登録データを検診、がん対策の計画立案・評価等に活用するとともに、医療関係者・府民に利用しやすいデータとする。	—	—
がん患者とその家族等を含む府民が、がん対策の重要性を認識し、がん医療に関する正しい理解を得て、医療従事者とも連携しながら、がん対策に主体的に参画する社会を目指す。	—	—
デジタル技術の活用等により、患者やその家族等の医療・福祉・保健サービスへのアクセシビリティを向上させるとともに、医療機関等が効率的かつ効果的にサービスを提供できることを目指す。	—	—
感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供することができる体制整備の推進	—	—

がんを予防し、早期発見・早期治療で、がんで亡くなる人を減らす	がんの年齢調整死亡率（75歳未満 人口10万人対）	全国がん登録
患者本位の適切な医療を実現し、がん患者およびその家族の苦痛や精神的不安の軽減ならびに療養生活の質の維持向上	がん種別5年生存率	全国がん登録/院内がん登録
がんになっても安心して暮らせる社会の構築	現在自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合	患者体験調査